

令和4年度 社会教育委員会（第4回） 議事要旨

◇日時

令和4年11月8日(火) 午後7時～午後9時

◇会場

生涯学習センター 2階 学習室2

◇出席者

【委員】土屋委員長、大島副委員長、小澤委員、小林委員、
一之瀬委員、奥村委員、大庭委員、小田委員

【事務局】古谷生涯学習課長、齊藤係長、渡邊主幹

◇会議次第及び内容（○は委員の発言）

1 開 会 （事務局）

2 委員長あいさつ

今夜は皆既月食でその話題で持ち切りですが、そんな特別な日にご出席いただきありがとうございます。本日の議題ですが、4（1）でまとめを最初に行おうと考えていましたが、かなりの時間を要しそうなので、（2）を先に行わせていただこう思う。急な変更で申し訳ないが、今日のワークのまとめと前回のワークのまとめを各自見てきていただき、どのようにやっていったらいいか目途を立てていただいで次の会議で話し合うようにしたい。

もう一つ、県社会教育委員連絡協議会の会報ですが、この号は裾野市の当番でして、市民活動の集いについて報告させていただいた。県の会議の中でも他市町の方たちから裾野市凄いなということで注目していただいた。この集いはこれからも大切に育てていけたらと思う。

3 報告事項

- ・各種委員会委員会の会議報告

特になし

- ・生涯学習課の名称を社会教育課に変更することを社会教育委員会から提案することについて

委員長

先日皆様にお集まりいただきご検討いただいたものをまとめたものになる。内容は令和5年度より生涯学習課を社会教育課へと名称変更する。ということが提案になる。ただ、行政にも事情があるので、令和5年度から変更できなくても、令和5年度にできないから却下というものではなく、検討していただきたいということをお願いしたいと考えている。提案書の内容でご了承ください。

事務局

前回会議で事務局にこの後の流れや方法について調べるようにお話があったのでそのことについてご報告します。

教育長、教育部長、生涯学習課長と協議した。社会教育法第17条第2項「社会教育委員は、教育委員会の会議に出席して社会教育に関し意見を述べることができる。」に基づき、意見を述べていただく。

流れは、教育長と部長に土屋委員に報告していただき、それを預かって12月の教育委員会に報告する。そして教育委員会で検討する。という流れ。ただ、事務局内でとらえ方が違っていたので、もしかすると教育長、部長にではなく、いきなり教育委員会で意見を述べていただくかもしれない。そこは明確にして委員長に報告する。組織の改編ということではなく、社会教育に関する意見を述べていただくというとらえ方をお願いすることになる。

(協議事項は委員長が進行)

4 協議事項

・「学校を核とした地域づくりのための環境整備」について

(1) 地域学校協働活動施策の推進に必要な体制を整備するための環境整備について
グループワークまとめ

次回に本日のワークのまとめと合わせて行う。

(2) 放課後子ども教室の実施を目指す中で必要な体制を整備するための環境整備について

グループワーク (3グループ)

放課後子ども教室とは何か共有し、グループごとに放課後子ども教室の実施を目指す中で必要な体制を整備するための環境整備についてどのような施策を考えていったらいいか話し合い、付箋にアイデアを記入し、模造紙に貼りだした。

第3回の会議のグループワークまとめと今回のワークのまとめを確認し、1月の定例会までに各自意見をまとめておく。答申の骨格を作っていく。

グループ1

- ・従来の学習支援（寺子屋活動）の予算がなくなって大多数の学校がCSの予算を使って継続すると思われる
- ・学習支援から始め学習だけでなく、いろんな地域で活動している先生へと広げていく
- ・教室でのけががあった場合での保険の問題
- ・教室を行ってくれる先生を誰が探すのか？その役割をしてくれる人を設ける必要がある（CSディレクターか？）
- ・CSディレクターが間をとりもち、地域と関わる

グループ2

地域学校協働活動にかかわることが暮らし（＝日常）が豊になるというプレゼンがカギ

学校と地域を繋げる仕掛け人が必要

コーディネーター

- ・CSディレクターには地域の未来を語る人材を

- ・CS ディレクター学校運営協議会委員には用意された研修以上に学ぶことをいとわない人材を

保険

- ・年度 800 円のスポーツ安全保険に加入
- ・区長会への後援申請により自治会保険の適用を受けることが可能
- ・R4 年度は 1 日のレクリエーション保険で対応

人間関係

- ・安心して→「やりたい」を言い出せる関係づくり

人材

- ・月に一度くらいなら仕事を休んでも子供の放課後に関わりたいという大人を生み出す
- ・地域住民にとって「うちの子みたいな子」を増やす。知り合う場を生み出す
- ・指導やボランティアで関わることで子供達から名前と呼ばれる経験をする知り合う
- ・向田小はドッジボールから入り、ボランティアで関わる大人を増やし「これくらいならできるかも」と言う大人を増やしていく
- ・お願いして指導してもらいより「やりたい」を実現していく

グループ 3

- ・時間の区切り何時から何時まで
- ・習い事との調整
- ・学年によって分ける。男女でも・・・
- ・ケガをしたら誰に連絡するか
- ・何かあった場合の連絡手段
- ・子供を誰が見るか（地域の代表）（親、先生など）
- ・子供(家庭)の状況把握
- ・教職員と地域住民との信頼関係の構築
- ・教職員と地域住民との交流機会の設置
- ・児童全員が参加できるか？
- ・だれでも参加できる。人数を決める。
- ・コーディネーターの確保
- ・どんな事を教えてくださるのか把握
- ・人材データバンクの整備
- ・地域の先生の確保！
- ・地域人材の把握
- ・コーディネーターの育成（研修）
- ・CS ディレクターを中心に進めていく
- ・場所の確保（教室か体育館）グラウンドその他
- ・実施場所の確保
- ・教室の空いている室を使う

5 その他

- ・静岡県社会教育委員連絡協議会会報の配布について

- ・ c s 通信⑫の配布について
- ・ 12/18 第 6 回市民活動の集いについて（出欠席報告締切 12/2）
- ・ 令和 4 年度富士・沼駿ブロック社会教育委員研修会について
1/24 日 13:00～（裾野市生涯学習センター）
後日改めて連絡する
- ・ 第 5 回会議の日程について
1月 17 日（火） 19:00～ 生涯学習センター2 階学習室 2 において開催

6 閉 会（大島副委員長）